

住まない考え方、そしてもう一つは居住地や生産拠点でない所に一時的に流す「いなす」という考え方です。これらのベストミックスをうまく探し出すのが地域の知恵かと思います。

市長 内水の浸水については、津市では「津市雨水管理総合計画」を作成し、河川の事業だけでなく、雨水全体の総合管理を進めています。同時に内水浸水想定区域図と内水ハザードマップを作っていますが、こういう取り組みの中で課題となるのが浸水状況をリアルタイムで把握をしないといけないというところですね。

時岡 国土交通省では川の水位については全国的に水位計やカメラを細かく設置しリアルタイムで水位を把握できますが、住居や農地がある川の外側についてはリアルタイムで把握するのは難しく、そこがまさに課題となる部分です。

山田 流域治水となると流域内でどこが氾濫していて、どこが氾濫していないかをきちんと把握しないといけません。そのために国土交通省はワンコイン浸水センサという安価な水位計を、市街地の中にたくさん設置して、その情報を集約し、市役所や関係者、市民が見えるようにしようと提案しました。そこで私は街の中にいくつもある自動販売機に浸水センサを付ければ、比較的安価に

データが手に入るのではないかと提案したんです。自動販売機なら、電源はあるし、商品補充の際に動作確認もできます。

市長 その全国第1号として、津市役所の駐車場にワンコイン浸水センサの付いた自動販売機を設置いたしました。

山田 企業の方に無償で浸水データを情報提供することで地域に貢献したいと言っていたら、非常にありがたい話だと思いました。

市長 この浸水センサ付き自動販売機は、山田教授の研究アイデアに対応し大塚ウエルネスベンディング株式会社が技術開発をされ、またこれまで実証実験を進めていた国土交通省、そして一般財団法人河川情報センターの協力もあり、産学官連携で完成したのですね。

時岡 どこが浸水しているかをリアルタイムで把握するということは、地域の事業所や店舗などの方々に、営業活動の観点でニーズがあります。浸水センサ付き自動販売機のような素晴らしいアイデアを地域で実現させていくことを行政として主導していくため、今回の浸水センサ運用の実証実験を国土交通省のプロジェクトとして実施することになったものです。

市長 それでは最後に、これからの流域治水、あるいは気候変動への対応を



ワンコイン浸水センサ設置の様子

進めていく上で、重要だとお考えの点をお聞かせいただけますか。

山田 私は50年以上、洪水や川の流れを研究してきました。流域治水とは歴史や地質地形学、気象学、水理学、河川工学、都市計画、心理学などの総合学問だと感じています。

これから勉強する方には、どこからでもいいので、自分が好きな分野から入ってきて欲しいと思います。そういう人の数が多ければ多いほど災害に強い地域になると思います。

時岡 今後の気候変動の影響に対していくために、未来がどう変わるか正確に予測をすることが非常に重要だと考えています。国土交通省では、研究者の方々と協力しながら、数字で予測をされた将来の懸念に対して、これまでの流域治水プロジェクトを少しアップグレードし、さらなる対策を進めていきます。

市長 これからも市民の生活を守る新しい取り組みを一つ一つ、前向きに進めてまいります。本日は誠にありがとうございました。

津市で日本初のプロジェクトが始動。
地域を守る取り組みを進めていく。

津市長
前葉泰幸
MAEBA YASUYUKI

市長対談の全編がご覧いただけます！
MAYOR'S TV SHOW

- ◆ 津市ホームページ 津市 市長対談 検索
- ◆ ケーブルテレビ行政情報番組(123ch)

